

Rapport（ラボール）とは、仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。
多摩大学広報紙「Rapport」は、多摩大学と多摩大学サークルをつなぐ
コミュニケーション紙です。

発行者 多摩大学 東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1 TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7101
<http://www.tama.ac.jp/>



Contents

News

経営情報学部父母「就職懇談会」開催 P.02

「私の志」小論文コンテスト 表彰式

経営情報学部・グローバルスタディーズ学部
共同開催 オープンキャンパス

特集 多摩キャンパス
雲雀祭

地域プロジェクト発表祭のご案内
多摩大チャンネル

多摩学
旧白洲邸 武相荘（町田）

P.03

P.04

P.07

P.08



「Sport Policy for Japan 2011」にて相原プロジェクトゼミが優秀賞受賞

10月1日（土）・2日（日）、早稲田大学東伏見キャンパスにて開催された「Sport Policy for Japan 2011」（主催：笹川スポーツ財団）で、経営情報学部 相原正道プロジェクトゼミのチームは、参加11大学19チームの中で審査の結果、優秀賞に選ばされました。日本のスポーツの現状や将来について問題意識を持つ大学生が意見交換する場で、多摩大学は「バイエルン・ミュンヘンのグローバル戦略 日本に対する経営戦略策定を中心に」というテーマで発表しました。今後は国会議事堂でのプレゼンテーションも決定しています。



力のこもった発表（左）、表彰状を手に（右）
<http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/10/sport-policy-for-japan-2011-1.html>

2011年度経営情報学部父母「就職懇談会」開催

10月2日（日）13時から多摩キャンパスにて、現3・4年次生ご父母対象の『2011年度経営情報学部父母「就職懇談会』』が開催されました。厳しい就職戦線に立ち向かう学生たちを教職員が全力でサポートしていますが、大学と家庭が連携してより効果的な就活支援ができるよう今回の懇談会を開催しました。全体会では後援会副会長の原山武敏様よりご挨拶をいただいた後、多摩大学における就職指導と就職活動支援について教職員からご父母の皆様に状況をご説明し、各教室に分かれてゼミ担当教員によるゼミ別面談を行いました。



父母の皆様と教員による面談
<http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/10/2011-53.html>

「湘南藤沢コンソーシアム」調印式

10月4日（火）、藤沢市内にキャンパスを置く多摩大学（グローバルスタディーズ学部）と慶應義塾大学（湘南藤沢キャンパス）、湘南工科大学、日本大学（生物資源科学部）の4大学と藤沢市は「湘南藤沢コンソーシアム」を設立し、調印式を行いました。「創造と知力、活力があふれる『ナレッジシティ湘南藤沢』」をコンセプトに、地域貢献の視点に立った知的集積にもとづく大学間や行政との連携、協働が進められます。大学間での単位互換制度や学術交流、学生交流等の取組みなども検討されています。



松林正一郎学部長（左）、海老根靖典藤沢市長（右）
<http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/10/104fsc.html>

多摩大アジアダイナミズム～韓国視察～ 報告

金美德ゼミ生、趙佑鎮ゼミ生及びアジアに興味を持つ学生18名が、9月13日から9月15日（2泊3日）まで、韓国ソウルで「多摩大アジアダイナミズム研修視察」を行いました。研修視察は韓国の政治・経済・歴史・文化を身近に実感する絶好の機会となり、中でも韓国国會議事堂視察及びパク・ウンス国會議員との対話、北朝鮮との国境線視察、韓国史跡探訪、韓国三井物産でのレクチャーなどは、韓国のダイナミックな変化やアジアビジネスを学生たちにリアルに認識させるものでした。



韓国国議事堂を視察し記念撮影
 多摩大アジアダイナミズム研修視察～韓国～報告書
http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/10/12/111012_asia1.pdf

樋口ゼミ主催「フィルハーモニア多摩第3回室内楽定期演奏会」開催

2011年10月21日（金）19時からパルテノン多摩小ホールにて、樋口裕一ゼミ主催の「フィルハーモニア多摩第3回室内楽定期演奏会」が開催されました。フィルハーモニア多摩は、「多摩地域の皆様のためのプロフェッショナル・オーケストラ」として2004年に結成。フィルハーモニア多摩を招いての演奏会は3回目となります。今回のテーマは『『星空の窓辺から』月・星・夜空の音楽 木管楽器編』、プロデュースは今村能音楽監督、身近な場所で一流の音楽を楽しむことができる貴重な機会となりました。



コンサート全体を取り仕切る学生たち
<http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/10/3-11.html>

経営情報学部 ホームゼミ説明会開催

10月15日（土）13時より、2年次からホームゼミを履修する1年生に向けての経営情報学部ホームゼミ説明会が開催されました。ホームゼミとは、実践力養成のため2年次からスタートする「専門ゼミ」です。少人数グループでの討論、発表を通じてコミュニケーションとプレゼンテーションの能力を養うとともに、将来の生き方にもつながる「志」を培っています。説明会では各ゼミの担当教員やゼミ生から日ごろの活動について熱のこもった説明が行われ、1年生は選択の参考とするべく真剣に参加していました。



1年生を対象に各ホームゼミを紹介
<http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/10/post-1486.html>

第3回「私の志」小論文コンテスト 表彰式

<http://www.tama.ac.jp/info/kokorozasi-ronbun/result.html>

11月13日（日）多摩キャンパスにて、第3回「私の志」小論文コンテストの表彰式が行われた。コンテストは「現代の志塾 多摩大学」として、高校生に「志」を考えるきっかけを提供し、志を持つ学生の育成につとめることを目的に開催。今回は「世界の中の日本」「地域の中の私」という2つのテーマが設けられ、高校生を対象に2011年7月1日～9月30日まで募集、390点の応募があった。

最優秀賞にはお茶の水女子大学附属高等学校2年の若原星花さんの作品「私の町から地域医療の発達を。」、優秀賞には宇都宮海星女子学院高等学校3年の中村萌さん、立命館守山高等学校2年の落合里奈さん、鉢田第二高等学校2年の飯塚絢子さんの作品が選ばれ、入賞者には審査委員長の樋口裕一教授より表彰状が授与された。

樋口委員長は、「若者は志を持つべきである。志とは夢でも憧れでもなく、しっかりと社会を見つめて社会に貢献し何かを変えていくもの。考え、書くことによって志が明確になってくる。今年は3.11の大震災や原発事故など日本社会にとって大きな変革の年となった。作品もそれらに関するものが多く、若者にとっては自分の志を見直す機会にもなった。入賞した作品はどれも志と社会考察をしっかりと兼ね備えた作品で、中でも最優秀賞は社会変革にもつながると思える作品であり審査員の高い評価を得た。皆さんには社会変革の意思を持ち、このコンテストをステップと考え自分の志を明確にして発信していってほしい」と講評した。

また審査員の橋詰博樹教授は、「今年は英文で書かれた作品が3点あり、いずれも相当の英語力を思わせるものであった」と評価した。



最優秀賞

若原 星花	お茶の水女子大学附属高等学校	2年	地域	『私の町から地域医療の発達を。』
-------	----------------	----	----	------------------

優秀賞

中村 萌	宇都宮海星女子学院高等学校	3年	世界	『日本人として思うこと』
落合 里奈	立命館守山高等学校	2年	世界	『私と差し伸べられた手』
飯塚 絢子	鉢田第二高等学校	2年	地域	『きっかけ』

佳作

工藤 玲	女子学院高等学校	1年	世界	『灯台下暗し』
鄭 善治	神戸朝鮮高級学校	2年	世界	『越えていくもの』
館山 拓馬	弘前中央高等学校	3年	地域	『文化の継承者として』
前沢 弘樹	下田高等学校（南伊豆分校）	3年	地域	『私達が地域の未来を創る 一農業が栄える町づくりへの私の決意—』
興水ゆりあ	甲陵高等学校	2年	地域	『“学校”と共に生きる“地域”』

入選

木島菜樹子	筑紫中央高等学校	2年	世界	『世界の中の日本 医療に国境は必要ない』
丸野 明晰	名古屋南高等学校	2年	世界	『日本と中国の私』
岩間 優	桜蔭高等学校	2年	世界	『決断力・実行力のあるグローバルな医師に』
久宝 智美	葺合高等学校	2年	世界	『日本を知りたい』
古野 真子	古賀竟成館高等学校	3年	地域	『The Importance of Uniting our Efforts (英語)』
福士 歩	松風塾高等学校	1年	地域	『私がやるべきこと』
平 奈緒	東海大学付属翔洋高等学校	2年	地域	『笑顔に向けて』
竹之内麻央	小倉南高等学校	2年	地域	『今までと“これから”』
唐澤 慧衣	松本蟻ヶ崎高等学校	2年	地域	『公民館から見えた』

(敬称略)

審査委員長 【経営情報学部】樋口 裕一 教授

審査員

【経営情報学部】諸橋 正幸 学部長

齋藤 T. 裕美 教授 広瀬 一郎 教授

出原 至道 教授

【グローバルスタディーズ学部】松林 正一郎 学部長

橋詰 博樹 教授 杉浦 悅子 教授

ウィリアム・シャング 教授

〈経営情報学部・グローバルスタディーズ学部 共同開催〉オープンキャンパス

<http://www.tama.ac.jp/info/opencampus2011.html>

2011年11月13日（日）13時～16時、多摩キャンパスにて経営情報学部・グローバルスタディーズ学部共同によるオープンキャンパスが開催された。ガイダンスではそれぞれの学部・学科を学部長が説明、在学生からはキャンパスライフが紹介された。高校生は模擬授業で実際に大学で行われる授業を体験、先輩たちが多摩キャンパスの施設を案内するキャンパスツアーも実施。在学生との交流会や入試担当教職員との個別相談、実際に近い形式で面談を体験できる模擬面談なども行われ、受験生にとっては多摩大学の学部全体像を知る好機となった。



諸橋学部長による学部・学科の説明



大学生活を語り合う在学生



模擬授業 <経営情報学部>

小論文の書き方講座

～入試で使える！

小論文のコツ教えます～

樋口 裕一 教授

作文の苦手な人でも簡単に論理的な文章を書くためのコツを指導。実際に社会的な問題について考えてもらいうながら、問題点を分析し、思索を深める方法についてもヒントが示された。

模擬授業 <グローバルスタディーズ学部>

1年次の英語集中教育：ライティング

～大学教育で必要な

ライティングスキルを身につける～

ウィリアム・シャング 教授

グローバルスタディーズ学部では授業の課題としてレポートを提出する機会が多い。1年次の英語集中教育で学ぶアカデミックライティングの基礎を体験し、個々のレベルに応じて指導が行われた。



多摩キャンパス 第23回 ひばり 雲雀祭

11月5日（土）・6日（日）に多摩キャンパスで開催された雲雀祭。今年のテーマは「自分色」。雲雀祭にかかわったすべての人、一人ひとりの「色」で雲雀祭というキャンパスを色鮮やかに染めてほしいという願いが込められた。屋外にはゼミが出店する模擬店、縁日が並び、アリーナでは音楽ライブや戦隊ショー、コンテスト、001教室では演劇の公演が開催された。寺島学長の講演やゼミの作品展示、クラシックコンサートなども行われ、大学生だけでなく子どもから年配の方までが参加し、楽しめる学園祭となった。



HIBARI FESTIVAL 23th

演 奏

樋口ゼミ喫茶店
ファゴットとクラリネットによるクラシック生演奏

樋口ゼミがプロデュースした「カフェ・アマデウス」。プロが演奏するクラシック音楽を聴きながら、ゆったりとカフェタイム。ファゴットは湯本真知子さん、クラリネットは村田明日香さん。お二人は国立音楽大学を卒業し、フィルハルモニア多摩でフリーで活動しているプロの音楽家。ファゴットは木がしゃべっているような音色、クラリネットは1本で4オクターブの音色が出る楽器、と楽器の特徴を楽しく解説。「となりのトトロ」よりさんぽ・「魔女の宅急便」より海の見える街・さよならの夏・秋の歌メドレー・ロンドンデリーの歌・Beethoven DUO No.1, No.2・POLENC SONATAなどが演奏された。



展 示

出原ゼミ学生作品展示
Maho-pen for Kinect

経営情報学部3年の西井裕介さんの作品「Maho-pen for Kinect」。PCの前で手を動かすとセンサーが手の動きを認識して画面上に图形を描く。自分で書いたプログラムをゲーム機X-Box360付加のデバイス「キネクト」と連携させた。さらに発展させることによりゲームをつくることができるそうだ。出原ゼミには7名の学生が所属し、グループまたは個人がそれぞれのテーマでプロジェクトに取り組む。週1、2回の意見交換もあり、「他の人の意見やアイデアを取り入れることで、もっといいものになる」と西井さん。「多摩大学の情報ポータブルサイトの構築と運営」など開発中のプロジェクトの要旨も紹介されていた。

講 演

寺島 実郎 学長 特別講演

5日15時から101教室で「寺島実郎 学長 特別講演」が開催された。一般の方が多数参加され、会場は満席となった。寺島学長は、「多摩ニュータウンの研究から始まったインターゼミ『多摩学』は今年で3年目。学生は多摩の地理と歴史をさらに深めて研究している。多摩は多摩川と相模川にはさまれた地域。多摩は地相ではなく思想だと思う」。蝦夷地防衛にあたった八王子千人同心、調布出身の近藤勇など多摩で活躍した歴史上の人物について語り、「『グローカル』とは、グローバルとローカルを合わせたことばで、ローカリティを深めていけばグローバルにつながる」。さらにグローバリゼーション、IT革命、9.11以降のアメリカの財政、3.11以降の日本経済の姿についても語った。



講 演

杉田 文章 教授 特別講演会
「実学」の行方 ~多摩大の20年と将来~

6日13時から124教室にて、多摩大学同窓会企画の杉田文章教授特別講演会「『実学』の行方～多摩大の20年と将来～」を開催。OB・OGが駆けつけ、講演の様子はユーストリームで同時配信された。杉田教授は「学生にとって大事なのは出口。大学の課題は、きちんと仕事ができる人間として社会に送り出していくこと。先輩方の目線から見た意見をいただきたい」。6月25日に同窓会と共同で開催した『新入生・卒業生懇談会』についても触れ、「卒業生と接触することで『就業』より先に『職業』を知ることができる。卒業生とどうやって協働していくか、どうやって力をもらうのかが重要、よりよい多摩大学としていくため皆さんからたくさんの力を拝借したい」と話した。



多摩大学が提携している海外の大学一覧

● T-SAP（海外研修制度）

T-SAP (Tama University Study Abroad Program) とはアメリカの大学で夏休みの約 1 ヶ月間、あるいは 9 月～3 月の半年間にわたり実施される多摩大学独自の海外研修プログラムです。通常の語学研修や講義、ディスカッションやプレゼンテーションなどのほか、現地企業への訪問や、スポーツアクティビティ、パーティーといった大学のイベントにも参加できます。グローバルな異文化コミュニケーションが体験でき、ビジネスイングリッシュの上達を考えている人にもおすすめです。

提携校：ポートランド州立大学（米国）

オレゴン州のビジネス、金融、産業、文化の中心都市にある、大規模な 4 年制大学。全米各国からの学生のほか、93ヶ国から 1200 人の留学生が在籍しています。

◎ 海外留学奨学金

区分	奨学金支給額	奨学生数	選考方法
1	300,000 円	短期留学者 3 名以内	学内特別奨学金委員会で、 奨学金選考基準により書類審査し決定。
2	800,000 円	長期留学者 2 名以内	

● 中国留学プログラム

経営情報学部では、国際ビジネス的一大拠点である中国に関する学びを強化しています。

中国語検定合格を目指す正課カリキュラムに中国語のプログラムを取り入れ、また中国で最も歴史のある名門・天津財経大学との交換留学制度も用意しています。

留学制度は半年または一年間の長期にわたる本格的なものです。常にグローバルなビジネスシーンを見据え、リアルタイムに時代のニーズを取り込む経営情報学部ならではのプログラムです。

天津財経大学（中国）

中国渤海湾の沿岸に位置する天津市にある。中国でも最も歴史のある財経大学です。経済、管理、法律、理学、文学の 5 学部、31 の専門学科があります。

◎ 中国留学奨学金

区分	奨学金支給額	奨学生数	選考方法
春	250,000 円	1 名以内	学内特別奨学金委員会で、 奨学金選考基準により書類審査し決定。
秋	250,000 円	1 名以内	

天津財経大学（中国）への交換留学を体験して

中国の天津財経大学で交換留学生として学んだ経営情報学部 4 年生の勾坂正宏さんと渡部亜裕子さんに留学生活について伺った。勾坂さんは 2010 年の 2 月下旬から 8 月上旬まで、渡部さんは 7 月上旬まで約半年間にわたり中国で生活した。勾坂さんは「中国の経済成長を自分の目で見て確認したかった」、渡部さんは「寺島学長主宰のインターネットで中国の文化や経済を学んでいるうちに自分の目で見たくなり、さらに語学も学びたかった」とから中国への留学を考えた。天津財経大学では授業は中国語で行われ、留学生はリスニング、スピーキング、文法、翻訳など語学を徹底的に学ぶ。漢字の意味は分かっても発音や会話が難しい。最初は戸惑いがあったものの、毎日授業を受けているうちに次第に上達していくのを実感したという。朝 8 時に始まりタイムテーブルは日本の大学とほぼ同じ。二人は日本語を勉強するクラスに行って、自己紹介をしたり好きなものを話したりと中国の学生たちと積極的に交流をした。日本語を学ぶ学生が多く、日本の POP カルチャーやビジネスへの関心も高い、勉強熱心で常に将来を考えている、と感じた。親しくなった学生たちは、語学を互いに教えあうなど週 1 回の勉強会も行うようになったそうだ。

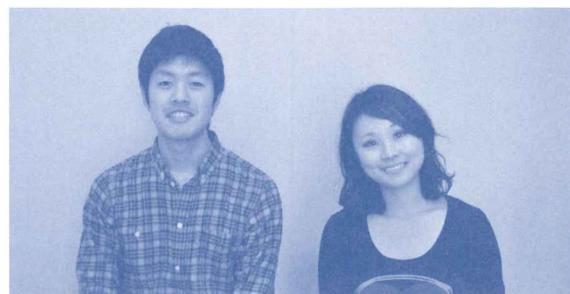
中国語で会話できた喜び

勾坂さんは大学の敷地内にある寮で生活した。外国人留学生用の寮はトイレとシャワー付きで清潔、快適に過ごせたという。寮には韓国、モンゴル、ベトナム、北米などからの留学生が滞在していて、英語で会話することができた。学内には様々な地方の中国料理を提供する学生向けの食堂が数多くあり、食事は「100 円で十分満足」。中でもおいしかったのは水餃子だったそうだ。休暇

には一人で北京、上海、広州、香港、マカオなどを 17 日間旅行。上海では知り合いもできて一緒に万博へも行った。「努力して勉強し、自分の中国語が通じるようになったことがうれしい。日本人と違って自分の考えをダイレクトに話す国民性の違いを感じた。様々な学生と交流できたことは楽しく、大きな収穫となった」。

将来は中国と関わる仕事を

渡部さんは多摩大学へ交換留学生として来日していた天津財経大学生の友人とともに、家賃 3 か月 600 元 (日本円: 約 7,300 円) のアパートで生活した。市場やスーパーで食材を調達し自炊、飲料水は購入した。停電して初めて電気は前もって購入するものだということが分かった。ルームシェアした友人からは勉強の仕方、考え方の相違、強い自立心を感じたという。自分の中国語を試したくて、中国人向けのガイドブックを片手に 1 週間かけて北京を旅行。日本の観光ブックにはない古い街道や街並みを歩いた。「大抵のことには圧倒されないようになったし、世界観が広がった。中国への興味はますます深まり、将来は中国に関わりのある仕事をしたい」との希望をもっている。



渡部亜裕子さん（右）
勾坂正宏さん（左）

お知らせ

〈2011年度地域プロジェクト発表祭〉

を2月9日に開催！

学生の地域活動成果をご覧になりませんか。

〈日 時〉 2012年2月9日(木) 9:00 ~ 18:00

入退場自由

〈場 所〉 多摩キャンパス 101教室

多摩大学は「問題解決の最前線に立つ人材」を育てるために、地域活動の現場に学生・教員が関わることを重視してきました。この一貫として、2009年度より開始されたのが、地域プロジェクト支援プログラムです。企業・行政・NPO等、志ある人々と連携して、教員と学生が地域課題の解決や調査を行うプロジェクトを支援するもので、3年目となる今年は下表のように20のプロジェクトが認定され、活動を行ってきました。

この成果発表会「地域プロジェクト発表祭」を左記の日時に開催いたします。

学生が、どのような調査、活動、提案を行うのか？毎年、地元公共機関やNPO等が来場し、質疑が交わされます。ご父母の皆様もご覧になってみませんか。来場大歓迎です。

2011年度地域プロジェクト発表祭 参加予定プロジェクト (順不同・発表の順番ではありません) 地域活性化マネジメントセンター

	テーマ	担当者	主なパートナー・協力者
1	多摩ニュータウンコミュニティサロン創出プロジェクト／貿易・豊ヶ丘団地 みんなでお食事／永山名店街・週末のバール創出構想	片桐徹也プロジェクトゼミ 「公民連携ビジネスプランニング」	多摩市、貿取団地自治会、貿取・豊ヶ丘商店街、永山名店街、セブン&アイグループ、NTT東日本、(多摩信用金庫)
2	東北「道の駅」大震災研究プロジェクト	地域活性化マネジメントセンター	東北みち会議、(財)JKA
3	多摩地区にクラシック音楽を！	樋口裕一ホームゼミ	ル・セルクル
4	多摩市サイクリルマップ制作プロジェクト	梅澤佳子ホームゼミ	
5	多摩うどん「ぼんぼこ」プロジェクト	梅澤佳子ホームゼミ	社会福祉法人時の会、多摩うどん「ぼんぼこ」
6	若者たちのメッセージー未来に向けて理想となる多摩市の姿ースピーチ大会	梅澤佳子ホームゼミ	多摩市教育部永山公民館、グリナード永山会住民共生イベント事務局
7	近隣交流「七輪横丁」プロジェクト	梅澤佳子ホームゼミ	多摩市諏訪五丁目諏訪名店街、NPO法人あしたや共働企画
8	みんなの菜園プロジェクトベルブ永山上緑化ハーフガーデンプロジェクト	梅澤佳子ホームゼミ	多摩市教育部永山公民館、新都市センター開発(株)
9	Let's GO-ya プロジェクトー多摩市におけるゴーヤ・グリーンカーテンの教育効果調査ー	中庭光彦ホームゼミ	多摩市教育委員会
10	中里介山と白洲次郎から考える多摩地域	寺島実郎インターホームゼミ「多摩学グループ」	
11	サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営	松本祐一プロジェクトゼミ 「集客施設のマーケティング」	(株)サンリオエンターテイメント
12	多摩の手土産づくり支援	久恒啓一ホームゼミ	焼き物世代交流会、多摩市経済観光課、多摩市の農家等
13	東京ヴェルディの地域活動支援	久恒啓一ホームゼミ	東京ヴェルディ1969フットボールクラブ(株)
14	多摩市市制施行40周年記念ハッピーフォトモザイクアート	松本祐一プロジェクトゼミ 「地域プロジェクトマネジメントの手法」	多摩市企画政策部企画課
15	東京にしがわ大学の授業を企画しよう	中野未知子プロジェクトゼミ 「実践的プロジェクトマネジメントの手法」	東京にしがわ大学、(有)あきゅらいず美養品、オリオン書房、(株)グリーンワイス、かみの工作所
16	ドトール・プロジェクト	酒井麻衣子ホームゼミ	(株)ドトールコーヒー、カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)
17	多摩市防災マップの作成	久恒啓一ホームゼミ	
18	アニメによる街づくり立川プロジェクト	斎藤T.裕美ホームゼミ	立川とあるアニメの連絡会、立川商工会議所
19	Enjoy! Puroland again!	斎藤T.裕美ホームゼミ	サンリオピューロランド
20	親と子のコーチング	飯田健雄ホームゼミ	多摩市立聖ヶ丘小学校

〈多摩大・志チャンネル〉 最新情報

<http://www.tama.ac.jp/info/channel.html>

多摩大学のホームページ(トップページのバナー、〈多摩大・志チャンネル〉をクリックしてください)では、「寺島実郎学長のメッセージ」や「教授陣の対談」、「ゼミ発表の様子」、「学生の志」などを音声・動画、文章で掲載しています。iTunes(「多摩大チャンネル」)で聞くことが出来るものもあります。その中から経営情報学部の学生への最新インタビューの一部をご紹介します。(HPで全文をご覧いただけます)

経営情報学部3年

吉本 崇晃さんの志



将来はどんな分野でもあっても
眞のプロフェッショナルに。

経営情報学部4年

北辻 巧多郎さんの志



多摩大学は自分
のやりたいこと
をやれる環境が
ある大学。

経営情報学部4年

安高 圭伊子さんの志



まずやってみよ
うと行動するよ
うになった。目
標を持って行動
することが一番
大切。

"多摩"人物紀行—— 6

白洲次郎と正子は1942年（昭和17年）10月、鶴川村能ヶ谷（現町田市能ヶ谷）に茅葺き屋根の農家を購入、1943年（昭和18年）5月に転居した。夫妻が暮らした母屋の正面玄関（写真左）。樹木や草花が四季折々に庭を彩る。囲炉裏のある表座敷（写真右）には、正子が収集した着物や器などが展示されている。写真右下の骨董は、緑釉土瓶（りょくゆうどびん）と北大路魯山人・作の麦藁手湯呑（むぎわらてゆのみ）。（写真提供：旧白洲邸 武相荘）



旧白洲邸 武相荘 (町田市)

小田急線の鶴川という駅から歩いて15分ほどのところに旧白洲邸 武相荘がある。2006年5月に一度訪問しているが、先日二度目の訪問を果たした。

おしゃれな老紳士、着物姿の女性たち、中年から老境にある女性の友人同士、そして老夫婦など見学者が多い。

ここに住んでいた夫婦は二人とも個性の強い人物だった。夫は白洲次郎（1902—1985年）、吉田茂首相のブレーンをつとめた快男児で、「マッカーサーを叱った男」として有名だ。妻は白洲正子（1910—1998年）、こちらは本物の生活を営んだ日本文化の目利きの女性として没後も人気が上がり続けている女性である。

白洲次郎は、通商産業省の創設など日本の早期の独立と経済復興に黒子として活躍し、57歳で東北電力会長を退いた後は、この武相荘で車と日曜大工とゴルフに興じた逸話の多い人物である。この武相荘（ぶあいそう）という名前も、武蔵国と相模国との境にあるのと、無愛想を連想させる語感が面白いということで次郎がつけたという。独自の人生観を身に付けた人物だったことを彷彿とさせるエピソードである。

次郎はダンディの見本として雑誌で特集が組まれるなど今なお人気があるが、ダンディの条件について次のように語っている。

筋を通す、弱者にやさしい、私（わたくし）しない、見た目にそこそこカッコいい。要するにダンディとは「やせ我慢」のことだろうか。

また次郎は、プリンシップルという言葉を大事にして、それを原則、筋、武士道などの日本語をあてている。自分なりの「美学」を持てということだろう。「志」にも近いと感じる。

妻の正子は明治の元勲・樺山愛輔の次女で、女人禁制の能舞台に演者として初めてたっている。その後、「お能」を刊行し、「能面」「か

Information

広報紙 Rapport へ皆様からご意見・ご感想・ご要望をお寄せください。

ご連絡はメールまたはお葉書で広報までお願い致します。

E-mail : koho@tama.ac.jp

多摩学
006



旧白洲邸 武相荘
東京都町田市能ヶ谷7丁目3番2号
042(735)5732
開館時間 10:00～17:00
休館日 月・火（祝日・振替休日は開館）
入館料 1,000円
小田急小田原線「鶴川駅」北口から徒歩15分
<http://www.buaiso.com>



久恒 啓一 (多摩大学経営情報学部教授)
<http://www.hisatune.net/>

くれ里」で読売文学賞を2度受賞するなど古美術、古典文学、紀行など幅広い分野で活躍した。

正子の著書「西国巡礼」の中で、多田道雄は「白洲さんにくつついて行った巡礼の終わりになって、その旅が実は自分を発見する旅だったことに気づくはずである」と述べている。巡礼は自己発見の道行（みちゆき）なのだ。

正子は、「今は命を大切にすることより、酒でも遊びでも恋愛でもよい、命がけで何かを実行してみることだ。そのときははじめて命の尊さと、この世のはかなさを実感するだろう」と書いている。

この武相荘には河上徹太郎夫妻が疎開し、小林秀雄、今日出海、青山二郎、大岡昇平などが訪ねて酒盛りが何度も催された。

「今、私が曲がりなりにも物を書いているのは、先生たちの恩に報いたいためで、幽明境を異にしようとも、彼らは私の心の中で生き続けており、私が死んだあとまでも生きてほしいと願うからである」と正子は晩年に集中した膨大な執筆量の動機を述べている。

イギリス流のカントリージェントルマンだった次郎と、日本の古典文学と古美術の美しさを再発見した正子。

旅に出るとせっかちな次郎と、道草の好きな正子。

「野人と韋駄天 世紀のカップル」という表現も武相荘で見かけた。韋駄天お正は、自分の眼で見、足を運んで執筆する姿勢を終生貫いた行動派だった。

最近横浜の百貨店で開催された二人の企画展のキャッチコピーは、「時代に媚びない。時代を染め抜く」とあり、次郎と正子をそれぞれ的確に説明してあった。

白洲次郎と白洲正子は、この武相荘で次郎の趣味の家具と、正子が蒐めた骨董に囲まれながらそれぞれの天命を生きたのである。



Rapport

Number .076

発 行 多摩大学
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1
TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7101
印刷・編集 株式会社 インフォテック
発 行 日 2012年1月31日

<http://www.tama.ac.jp/>